

研究編

英論文の書き方

精神科医 角谷 寛
(滋賀医科大学 睡眠行動医学講座)

和文論文を作成した経験のある方は、次のステップとして英論文の作成を目指しましょう。記載すべき内容は和文と同じですし、「睡眠口腔医学」も英論文を受け付けておりますので、ぜひチャレンジしてください。そのお役に立てるよう、勘所について解説いたします。

EBM について、読んだ論文で注意すべきこと

歯科医 西山 暁
(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野)

RCT 論文はすべてエビデンスレベルが高いと判断していいのだろうか、対象としている患者群、アウトカム、治療期間などが、目の前の患者と同等だろうか。本講演では、このような批判的吟味の概要を、実際の論文を例にとって解説してゆく。

今後の睡眠歯科研究の方向性

歯科医 古橋 明文
(愛知医科大学 大学院医学研究科 口腔外科学)

我々歯科医が知識や経験を生かし、口腔・上気道に関連した睡眠呼吸障害の治療・予防に貢献できる睡眠歯科は、奥深く、やりがいのある領域です。また、病態が異なる小児から高齢者までを対象とする睡眠歯科研究は、テーマも多岐にわたり、面白さに溢れています。本講演では、診療ガイドラインワーキンググループの活動を交えながら、睡眠歯科研究の変遷、今後に期待されることをお話したいと思います。